



独立行政法人福祉医療機構
社会福祉振興助成事業

2020年度

子ども・地域よりあい広場

「わっこの家」



地域の居場所と地域コインを活用した地域の「わ」づくり

事業活動報告書



non profit organization morioka youth port





目 次



1. はじめに、背景と目的 …… 3ページ
2. 事業内容と実績 …… 4ページ
3. わっコイン …… 4ページ
4. 事業成果 …… 5ページ
5. アンケート結果 …… 6ページ
6. もりおかユースポート紹介… 7ページ
7. サポーター募集&アクセス… 8ページ



特定非営利活動法人もりおかユースポート

もりおかユースポートは、若者の支援のために結成されたNPO法人です。岩手に若者が社会へ船出するための拠点を作りたい。そんな願いをこめて「若者の港」＝「ユースポート」と名付けました。

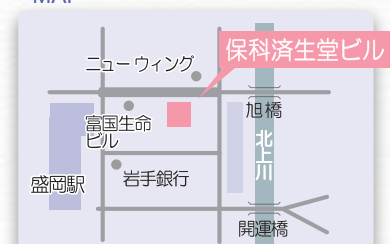
現在は若者支援をはじめ、ひきこもり支援、子ども支援、子どもの学習支援、生活困窮者支援、社会的養護支援など幅広い世代の支援を行っています。

連絡先
問合せ先

〒020-0034 盛岡市盛岡駅前通16-15保科済生堂ビル3階
TEL:019-613-3457 FAX:019-613-3458
E-mail:mail@my-port.jp ホームページ:http://my-port.jp



MAP



はじめに・事業背景と目的

はじめに

もりおかユースポートで実施するすべての事業に関わるみなさま、ご支援をくださるみなさま、ユースポートが提供するサービスをご利用いただいているみなさまに、日頃より法人事業への多大なご理解、ご協力をいただき感謝申し上げます。

平成31年4月より独立行政法人福祉医療機構様の「社会福祉振興助成事業」に採択をいただいで実施した「多世代交流の居場所と地域で支えるたすけあい」事業を引き継ぎ、令和2年度は「地域の居場所と地域コインを活用した地域の『わ』づくり」事業として実施する運びとなりました。

本事業は平成29年2月より運営しておりました「子ども地域よりあい広場わっこの家」を拠点に事業内容を拡充し、子どもたちの育ちも含めた地域の課題を地域の方で支えていくことをサポートする目的で開始しました。本年はコロナ過の中、本事業がつつがなく運営できたのは、みなさまからのご支援、ご協力の賜物と、スタッフ一同より感謝申し上げます。

本冊子は令和2年度に実施した「地域の居場所と地域コインを活用した地域の『わ』づくり」事業の活動報告です。ぜひ、ご拝読賜れましたら幸いです。

特定非営利活動法人もりおかユースポート 理事長 加藤 源広



背景と目的

少子高齢社会が定着し、単独世帯・核家族世帯が全世帯数の8割を超えてからすでに20年が経過する中で、高齢化世帯・独居高齢者世帯が年々増え続け、地域社会から孤立した家庭も増加し、子どもが家庭で孤立しているケースや、高齢者世帯から中年以上のひきこもりが発見される8050問題など、社会とのつながりが薄い「社会的困窮」が原因となっている課題が増えてきています。

これらの課題は相互に複雑に絡み合い、しかも公的に提供されている社会福祉サービスの隙間にあるものが多く、現状存在する社会資源では対処が難しいものとなっています。

この事業は地域の居場所や子ども食堂という活動を中心に、「おかげさまコイン」というアイテムを介することで、こうした課題背景を抱える対象者を地域に再包摂し、それぞれが抱える課題、問題を地域で支える仕組みを地域の力で構築できないかと考え実施しています。



事業の内容と実績

■わっこ広場（多世代交流の居場所）

子どもから大人まで多世代が交流できるみんなの居場所

開所時間 毎週火曜から土曜日 13:00～18:00

実施内容

- ・子どもたちの放課後の居場所
- ・小学生等の学習支援の実施
- ・地域の方の交流の場、茶話会の実施
- ・不登校、ひきこもり等の居場所の提供

事業実績

	実施回数	参加者数
居 場 所	236日	1960人
学 習 支 援 (毎週水曜日他)	97回	175人
茶話会・工作会 (第2・4火曜日他)	95回	202人

茶話会内容（参加費用200円 または わっこコイン1枚）

エコクラフト（かご、コースター等の作成）

フェルトチャームづくり、スマホで年賀状作成

工作会内容（参加費用 わっこコイン1枚）

まんげきょう、オリジナル下敷き、毛糸のポンポン

プラバンキーホルダー、ふわりんパラシュート

あんごうスマホ、くるくる皿まわし、輪ゴム鉄砲

紙パックスタンプ、ポンポンヘアゴム、スノードーム

輪ゴムで走るクルマ、ペットボトルキャップのこま

イラストパズル、でんでん太鼓、ジェルキャンドル

ゆびあみマフラー



わっ工作の様子
(プラバンキーホルダーづくり)

■わっこ食堂（子ども・地域食堂）

みんなで楽しむ月1～2回の食堂と交流イベント

実施回数：毎月1～2回実施

実施内容

子どもを中心に代を超えて交流できるイベントの実施

・昼のわっこ食堂 毎月第2土曜 11:00～13:00

大人300円 子ども200円 または わっこコイン1枚

・夜のわっこ食堂 毎月最終木曜 18:00～20:00

大人300円 子ども200円 または わっこコイン1枚

・地域交流会

昼の食堂後 一部有料200円 または わっこコイン1枚

事業実績

	実施回数	参加者数
昼のわっこ食堂	12回	190人
夜のわっこ食堂	12回	119人
交流会	11回	72人

内容

4月：クイズ大会 5月：クイズ大会 6月：昔のあそび

8月：スイカ割り 9月：クイズ大会 10月：ハロウィン

工作 11月：スタンプづくり 12月：Xmasケーキづくり

1月：餅つき 2月：トランプ 3月：かるた



わっこ食堂の
様子

わっこコイン（おかげさま通貨）

地域の奉仕の力と支援をつなぎ、地域の助け合いの循環を媒介し促進するアイテムとしてのおかげさま通貨「わっこコイン」。

地域の助け合い活動の活性化を図るとともに、子ども食堂等の利用の抵抗感を軽減することが目的で導入しました。

わっこの家の活動の手伝いや、地域活動のボランティア、高齢者支援等に参加した方に渡し、わっこ

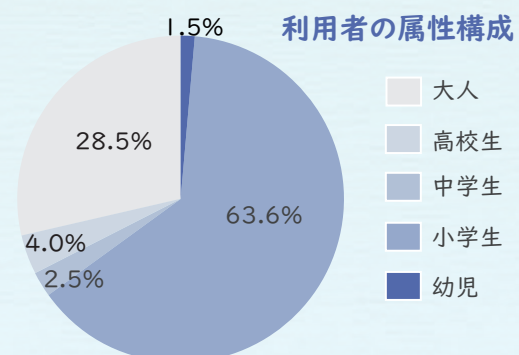
食堂や交流会、茶話会、生活支援サービスなどの利用の際に活用すると、無料または割引でサービスが利用できるアイテムです。



わっこコイン実物

まとめ

利用者の属性構成



■地域で支えるたすけあい事業

(地域生活支援・地域のつながり作り)

生活支援ちいさな困りごとを地域と人のつながりで解決したい。地域と人と連携して地域の力を募り、つなぎ強くする内容

独居高齢者や高齢者世帯の方などを対象にした生活支援(介護保険では対応できないサービス等)と人手が足りなくて困っている地域のイベントなどの手伝いを、ひきこもりの若者や不登校の子ども、わっこの家のボランティアサポーターで実施。

受付時間:毎週火曜日から土曜日、13:00から18:00の間、依頼が入った都度随時対応。

事業実績

実施回数 50回 参加者数 70人

実施内容 高齢者宅のお掃除、庭の草取り、雪かき、地域のイベント補助、歴史的建造物の管理清掃補助
地域の清掃、草取りなど



生活支援
高齢者宅の
雪かきの様子

■地域相談窓

□

気軽に相談できる身近な地域の相談窓口
内容

地域で相談相手のいない方、近しい人にはなかなか話にくい相談に、身近な相談窓口を提供し、専門のスタッフが課題解決のお手伝いをする。

受付時間:毎月2回 13:00から18:00 ほか随時対応

事業実績

実施回数 76回 利用者数延べ102件 実人数 18人

その他の活動

■地域説明会・ボランティア説明会

6月・11月実施予定 青山地区活動センター

コロナウイルス感染拡大対策のため中止

■事業報告会

3月実施予定 岩手県公会堂

コロナウイルス感染拡大対策のため中止

コロナ禍の中での活動

2020年度は新型コロナウイルス感染症の拡大予防対策のため年度の当初から緊急事態宣言が発令され活動の継続が危ぶまれ、11月には岩手県で初のクラスターが発生し、わっこの家の利用対象学区でも感染者が発生するなどの事態の対応に追われた。

●感染症対策の徹底

感染症予防対策のため、居場所・食堂の人数制限や定期的な換気、来所者のマスク着用の徹底、検温、手指消毒、体調チェックなどを実施した。

●各種イベントの中止

緊急事態宣言の発令や近隣でのクラスターの発生がイベントの実施時期や計画の時期に重なり、当初予定していた事業説明会やボランティア募集のための説明会、事業報告会の実施は断念せざるを得なかった。

●子ども食堂・居場所の継続

各地の子ども食堂が活動を中止し、食事の提供からお弁当や食材を配布するフードパントリー事業に活動を転換する中、地域交流という事業の趣旨を鑑み感染症対策を徹底したうえで継続の判断をした。居場所も近隣で感染者が発生した際に休所した以外は開所を継続した。

1. ひろがる居場所の利用者

小学生を中心に中学生や高齢者、障がい者、被災地から転居して来た方、コロナ禍で失職した方など多様な方々の利用があった。今年度はとくに大人の利用が増加した。茶話会は感染症対策のためプログラムが制限され利用者を伸ばせなかった。

2. コロナ禍の中での食堂と交流会

昼の食堂と夜の食堂を実施した。コロナ禍の下、食事の提供を停止する子ども食堂が増える中で継続の判断をしたが利用者が大きく増減することはなかった。今年度より食事の提供を有料化したかわっコインと

の交換も行っており、ほとんどの利用者がわっコインを利用して参加した。交流会は外部の講師や出演者の招聘ができなかったため子ども向けのマンネリな内容となってしまうとくに大人の利用が伸びなかった。

3. 地域生活支援・地域のつながり作り

地域包括支援センターと連携により、地域の高齢者宅の草取りや雪かきなどの依頼が増加した。ゴミ拾いや清掃活動は例年通り実施できたが、感染症対策のため地域のイベントが行われず、地域の商店街などと連携したボランティア活動は縮小せざるを得なかった。

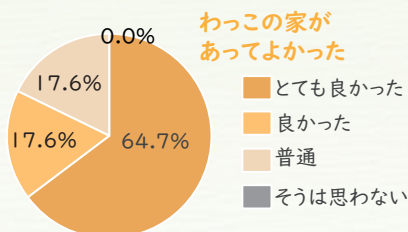
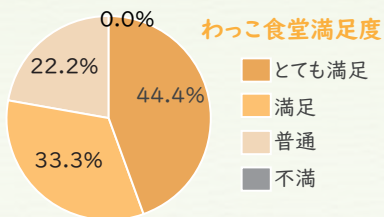
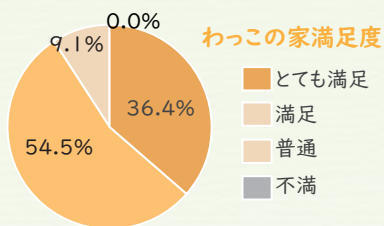
4. 困りごとの把握と相談

今年度もひきこもりの当事者や居場所を利用している子どもたちの相談が中心となった。居場所や食堂で把握した悩みや困りごとを相談支援につなぐ仕組みを工夫する必要がある。

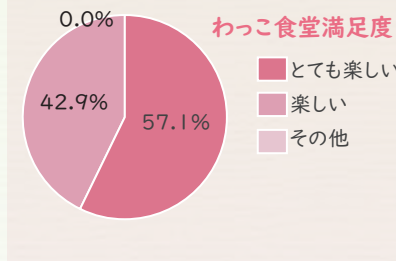
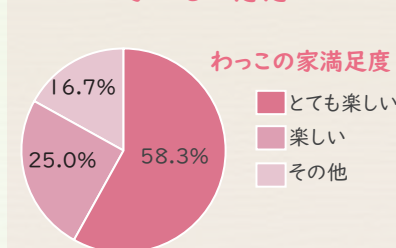
食堂や工作の利用を有料化し併せてわっコインの利用も導入したところ、子どもたちを中心に積極的に活動の手伝いに関わるようになった。自分が手に入れたわっコインで親や友人を食堂に誘う姿も見られ、わっコインがわっこの家の活動の促進剤として機能できることを実感できた。

アンケート結果

実施日：2021年3月 回答数：大人17件 子ども12件
 大人のアンケート結果は左グラフのとおり、居場所は9割、食堂は8割に近い方から満足いただいている結果となった。地域にわっこの家があってよかったと思っている方は8割を超え、地域の中でわっこの家の活動が評価されていることがわかった。
 子どもたちへのアンケートは右のグラフの通り居場所は8割以上、食堂は10割の子どもたちが楽しんで利用していることがわかった。自由記述の感想からも活動への期待や、今後の活動の継続が望まれていることを強く感じる結果となった。



子どもの感想



利用者・地域の声（抜粋）

- ・ わっこの家が近くにあったので、毎日外出する理由になっている。なかったら出かける理由が無くて家に閉じこもっていたかも…。 **50代本人**
- ・ 子どもの楽しみが増え、感謝しています。色々方々とのコミュニケーションの場として、子どもに良い刺激にもなっていると思います。 **保護者**
- ・ 親が仕事の時など、学校帰りに利用しています。一人で留守番させるのは不安なのでとても助かっています。 **保護者**
- ・ 近所の子どもたち、利用者さん、スタッフさん、誰かしらが居て「自分は一人ぼっちではない」という気持ちになれる。 **保護者**
- ・ 小人数であたたかい雰囲気。学生ボランティアの方と触れ合う機会があったのも息子にとってお兄さんと遊べて楽しかったとのこと感謝です。 **保護者**
- ・ コロナで様々なことに規制がかかる中で工夫され、子どもたちを受け入れて下さり心より感謝しています。今後もよろしくお願いします。 **保護者**
- ・ ひきこもりの親に知らせることができた。多くの子どもたちと知り合いになった。 **地域の方**
- ・ 子どもの居場所、高齢者の居場所につながる活動にお手伝いできるような考えたいと思っています。 **地域の方**
- ・ ユースポートのアイデアに期待しています。令和3年に自治会で住民を対象に日常生活で困っていることの調査を予定しています。ニーズが把握できたら連携したいと考えています。よろしくお願いします。 **地域の方**

今後の展望

利用者と関係者のひろがり

子どもから高齢者まで地域の方に広く関心を持ってもらい居場所や食堂、生活支援などの利用者を増やすとともに、イベントやSNS等による情報発信を積極的に行い、わっこの家の活動に関心のある方を増やし、潜在的な利用者・支え手のすそ野を広げる工夫が必要と考える。

支え手の養成と事業継続に向けた取り組み

わっこの家を拠点とした地域福祉の取り組みの継続・発展を目指し、住民向けの事業説明会やボランティア養成講座を開催し、支え手の組織化を図り、ボランティアベースで運営できるような体制を作る。

今年は新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で実施できなかったため、取り組みに遅れが生じており、次年度は積極的に取り組む必要がある。

広く寄付や協賛金等を募るとともに、食事の提供や生活支援サービスの有料化と「わっこコイン」による無償・割引の活動のバランスを取りながら経営の安定化を図る。

わっこコインの利用場所の拡張

自治会や地元商店街、地域包括支援センター等と連携し地域のイベントや環境整備の取り組み、高齢者や震災被災者のくらしのサポート等に「わっこコイン」が活用できるよう利用範囲を拡大し、地域の自助・共助の力を醸成しつつ地域福祉の活性化を目指す。

事業モデルの作成と展開

他地域でも同様の取り組みが行えるように、わっこの家の活動のポイントをまとめ、社会全体の福祉の向上に寄与できるような事業モデルの作成、公開を目指す。

ー もりおかユースポートの活動 ー



特定非営利活動法人

もりおかユースポート

もりおかユースポートは

若者を社会にひらく、社会を若者にひらく

を活動理念に、岩手県で若者の支援を行うNPO法人です。

2012年に設立以来、若者の自立支援活動を中心に、ひきこもり支援、不登校の学習支援、生活困窮者支援、中学生の学習支援、子ども支援、児童養護施設退所者の自立支援を行っています。

すべての若者の福祉と、よりよい社会を目指して、**今の若者、いつかの若者、これからの若者**の支援をしていきます。



ひきこもり支援部門

ひきこもり等支援プラザ“ゆきわり”



ひきこもりや不登校等の当事者及びその家族を対象に、本人及び家族への相談支援、アウトリーチ（家庭訪問）、家族会、家族教室、居場所活動、ボランティア等の体験の支援を行っています。

ひきこもり支援者セミナーや各種講演会も企画・運営しています。



子ども支援部門

子ども・地域よりあい広場 「わっこの家」



子どもの居場所・子ども食堂活動を中心に、小学生の学習支援、地域住民対象の茶話会、郷土料理・手仕事などの体験会、高齢者の生活支援活動、地域のイベントのお手伝いなど、子どもと地域をつなぐ活動を行っています。

学びの広場TOMO（盛岡市・滝沢市）

家の状況により学習の環境が整わない家庭の中学生を対象に、盛岡市と滝沢市の公民館等で定期的に学習の支援を行っています。

若者支援部門



もりおか若者キャリアサポートセンター

就労や自立に困難を抱える若者の自立を総合的に支援する若者支援の拠点

● もりおか若者サポートステーション

地域若者サポートステーション事業・岩手労働局、岩手県、盛岡市

15歳～39歳の若者と40歳～49歳の就職氷河期世代の長期無業者を中心に就職の支援を行います。

キャリアカウンセリング、就労相談、就活支援、職場体験、ボランティア体験、出張セミナー・相談、カウンセリング、各種セミナーなどのプログラムを実施して若者の就職支援を行っています。

● ミ・ポルトいわて

（岩手県社会的養護自立支援事業）



児童養護施設や里親の元での生活から離れ、就職や進学で自立を目指す子どもたちの生活自立支援、就労支援、就労継続支援、交流のための居場所の提供、住居（シェアハウス）の提供などを行っています。



生活困窮者支援部門

盛岡市生活困窮者就労準備支援事業

盛岡くらしの相談支援室（盛岡市生活困窮者自立支援相談窓口）を利用されている方で、とくにきめ細やかな自立就労支援を必要とされる方に、キャリアカウンセリング、就労相談、就活支援、職場体験、ボランティア体験、各種セミナー等のプログラムを提供して就職支援を行っています。

中間的就労支援

生活困窮者就労準備支援事業の利用者等で、まとまった期間の体験活動が就労支援に有効と思われる方を対象に、就業体験、ボランティア体験、農業体験などを有償ボランティアとして提供しています。



